

# 自然会話における「かもしれない」「かも」の機能について

——断りの場面を中心に——

許 允瑄（ホ ユンソン）（筑波大学大学院生）

## 要 旨

本研究は、断りの場面で使用された「かもしれない」と「かも」の機能について考察を試みた。断りの場面で使用された「かもしれない」と「かも」は、断定形で断る場合に見られた否定的な意味を持つ述語と共起していたことから、相手に伝えにくいことを「かもしれない」と「かも」で間接的に表現にするための一つの談話マーカ―として使用されていると考えられる。また、先輩に対して断る場合、「かもしれない」と「かも」の使用が見られなかったが、断り表現として「かもしれない」と「かも」が用いられる場合、聞き手に断りたい意を察してもらわなければいけないこととなり、聞き手に負担をかけることになるため、対人関係において話し手(断る側)より身分が上の人には使いにくいことがわかった。

キーワード：かもしれない、かも、断り、自然会話、コーパス

## 1. はじめに

「かもしれない」は、これまで「だろう」「ようだ」「らしい」「そうだ」「にちがいない」などとともにもダリティの研究分野で論じられてきており、「だろう」と共に「推量」を表す表現形式の一つとして捉えられてきた。一方で、「かもしれない」の意味を語用論の側面から「婉曲」の意味として捉え、その意味と機能を分析・考察したものが近年多く見られるようになり、日本語教育の中でも、「かもしれない」を「婉曲表現」として捉えようとする傾向がみられる（平田（2001）、麻生（2002）、黄（2006））。

しかし、「かもしれない」を婉曲表現として捉えた研究は、「かもしれない」が持つ基本的な意味から派生されたとされる「婉曲」の概念が定義されていないまま「かもしれない」が議論されており、婉曲表現の捉え方についての疑問が残る。また、文脈の中で「かもしれない」がどのように機能しているのか（あるいは、どのような役割を果たしているのか）について十分議論されていないことが問題である。

そこで、本研究では、ある文脈において「かもしれない」とその縮約形とされる「かも」がどのような働きを果たしているのかを明らかにすることを目的とする。本研究では、数多くの文脈の中で、断りの場面に注目し、断りの表現として「かもしれない」と「かも」が果たす機能について分析・考察を行うことにする。

## 2. 「かもしれない」の先行研究

### 2.1. 「かもしれない」の基本的な意味

「かもしれない」の意味について、モダリティ研究からは大きく 2 つの立場に分れる。森山（1989）、仁田（1991）、益岡（1991）は、事態が成り立つ蓋然性（確かさの度合い）の程度が低いことをあらわす形式であるとしている。それに対して三宅（1994、1995a、

1995b) は命題が真である可能性があることを「可能性判断」と呼び、上記の蓋然性の低さという位置づけに批判的立場をとった。

これまで「かもしれない」は疑似のモダリティ（仁田（1991）や二次的モダリティ（益岡（1991））、また認識的モダリティ（三宅（1995a））として議論されてきた。それに対して仁田（1991）は「カモシレナイ」は「ダロウ」と共に「押し量りの表現から婉曲な述べ立ての表現・断言を控えた述べ立てに移りいく傾向がある」と指摘している。婉曲表現として「かもしれない」の意味と機能を考察した研究については2.2で述べる。

## 2.2. 婉曲表現としての「かもしれない」

平田（2001）は、「かもしれない」を語用論の観点から「婉曲表現」として捉え、分析を行った。平田（2001）の研究では、「婉曲」の意味を「表現などの遠まわしなさま、露骨にならないように言うさま」という『広辞苑』の定義に基づき、「婉曲」をやわらかで丁寧な表現であるとした。

平田（2001）の研究を皮切りに、婉曲表現としての「かもしれない」の意味・機能を分析した研究が多く出ている。麻生（2002）は、「かもしれない」が婉曲表現として使用される際の機能について分析し、黄（2006）は、「聞き手と話し手との共感領域」に焦点を当て、「かもしれない」の婉曲表現としての機能を分類した。

ここでは、以上の先行研究で婉曲表現とされた「かもしれない」の意味分類を以下の表1にまとめる。

表1 先行研究での婉曲表現「かもしれない」の機能分類

	平田（2001）	麻生（2002）	黄（2006）
機能 分類	間接的表現 前置き 擬似的同意	弁解 譲歩・妥協 受け流し 皮肉 事実や自分自身の判断・ 意見等の表明回避 自己の客観化	反論・弁解 想定 擬似的同意 評価 表明回避

表1を見てみると、平田（2001）では、婉曲の意味を間接的表現・前置き・擬似的同意の3つに大きく分けて考察しているのに対し、麻生（2002）・黄（2006）では、さらに「かもしれない」の婉曲の機能を細分化していることがわかる。特に、平田（2001）では見られなかった「表明回避」の機能が麻生（2002）・黄（2006）に共通として見られた。麻生（2002）では、本来なら「だろう」を用いて表現すべきところを「かもしれない」を用いて、事実あるいは話者自身の意見・判断を回避していることが「事実や自分自身の判断・意見等の表明回避」であるとし、黄（2006）では、「表明回避」を、「自分の感情や感覚などを述べる際に、断言するのを避け、わざと不確かな言い方で、相手に配慮を示す表現である」と定義している。特に、発話場面で、相手の発話をフォローする場合によく現れると指摘している。

### 2.3. ポライトネス理論から見た「かもしれない」

平田 (2001) は、「かもしれない」を、Brown&Levinson (1987) のポライトネス理論<sup>(1)</sup> の概念に基づき、婉曲表現としての「かもしれない」を分析・考察している。平田 (2001) によると、「かもしれない」は、聞き手のフェイスの場合、対話場面において、話し手が聞き手の積極的または消極的フェイスを威嚇せず、それらを維持するためのポライトネスとしての役割を果たしており、話し手のフェイスの場合、話し手は聞き手のフェイスを脅かさなようにポライトネスを用い、聞き手に配慮すると同時に、話し手自身のフェイスを守る自己防衛としての役割も果たしていると考察している。

また、山岡・牧原・小野 (2010) は、配慮表現としての文末表現として「かもしれない」を取り上げ、発話機能が相手への反論や非難のような聞き手に対して FTA である場合に消極的配慮としての働きがあるとし、また発話機能が改善要求や主張の場合、はっきり言い切らないことで自分の判断を相手に押し付けない配慮が表現されているとしている。

### 3. 日本語教育における「かもしれない」の扱い

これまでの先行研究から「かもしれない」が、対話において推量の意味だけではなく、聞き手に配慮するために使用されることがあることは明らかとされている。では、日本語教育の立場から、教科書に「かもしれない」がどのように提示されているのかについて少し見ていくこととする。

「かもしれない」は、初級後半レベルで提示されることが多く、一般に命題の不確実を表す推量の意味のみ取り上げている。例えば、『J.Bridge (pp.141)』では、「かもしれない」の意味を might と説明し、「もしかすると雨が降るかもしれません。」のような推量の例文のみを提示しており、SFJ でも推量の意味の例文のみ取り上げている。

表 2 日本語教科書における「かもしれない」の扱い

	SFJ (Situational Functional Japanese)	J.Bridge
意味	indicates uncertainty may~/might	might
例文	・明日は雨かもしれません。 ・来月はひまかもしれない。	・もしかすると雨が降るかもしれません。

それに対し、教師用の指導書では、「かもしれない」を推量用法と、相手への配慮を表す表現としての用法も合わせて扱っている (『教師用日本語教育ハンドブック④文法Ⅱ』(1993)、『教師と学習者のための日本語文型辞典』(1998))。しかし、これらの指導書に提示されている例文はそのほとんどが作例であり、実際の会話で「かもしれない」「かも」がどのように使用され、またどのような役割を果たしているのかについては提示されていない場合が多い。中上級以上の学習者に役立つ会話教育の立場から考えると、理解が容易である表現とされる表現も実際のコミュニケーションの場面でどのように使われるのかにつ

いて明らかにし、学習者に提示する必要があると考えられる。

#### 4. 本研究の立場

山岡・牧原・小野（2010）は、配慮表現を、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」と定義し、「かもしれない」を用いることで、相手への反論や主張を遠慮して表現することができるとしている。また、彭飛（2004）は、仁田（1989）でいう「婉曲表現」は「配慮表現」における「緩和表現」の一部にすぎないとし、「配慮表現」とは、「話し手の言表事態の成立が真であることを相手に柔らかく伝えるために、「言表事態の成立が未だ確認されていない」かのように押し量りの形をとるという技法（婉曲法）である」としている。

断りという言語行動に関して、施（2005）は、「相手の好意や依頼に対して「その意に沿えない」という気持ちを相手に理解してもらう行動であり、その行動自体が相手の心情を害し、人間関係を損なう危険性を伴うものであるとし、「断り」を行う際、話し手は、「断り」を達成するほかに、人間関係を維持するために、相手に不快な思いをさせない配慮が必要であるということ」を指摘している。そこで、本研究では、「かもしれない」を山岡・牧原・小野（2010）の定義に従い、「配慮表現」として捉え、聞き手の積極的フェイスを脅かす行動の一つである「断り」の場面に注目し、「かもしれない」と「かも」について考察を行う。

#### 5. 調査方法

本研究では、『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1（日本語母語話者同士の会話）2007年版』（以下、コーパスと略述）をデータとして扱うことにした。コーパスの全6種類の会話データの中（雑談（初対面、友人）、論文指導、断りの電話会話、依頼を含む電話会話、友人同士の雑談）、断りの電話会話資料のみをデータとして扱った。以下の表<sup>2）</sup>に、本研究で使用した断りの電話会話コーパスの情報を示す。

表3 断りの電話会話コーパスの概要

コーパス名称	被験者	話者の関係	話者記号の意味	収集方法	総会話数
女性同士の断りの電話会話	日本語母語話者—大学生あるいは大学院生、18-23歳、女性、52名	親しい同性友人同士。対話者が、ベース（依頼側）の学校の先輩か同級生か後輩	JB1:Japanese Base Irai JOK:Japanese Old Kotowari JSK:Japanese Same-age Kotowari JYK:Japanese Young Kotowari	依頼をしてもらう被験者に、学校の先輩、同級生、後輩にあたる同性の相手を選んでもらい、それぞれ一回ずつ（携帯）電話で会話をして録音してもらう。	39 （対先輩、対同級生、対後輩13会話ずつ）

本コーパスの依頼内容は、「友人に、明日の午前中に自分の代わりに自分の男友達といっしょに国立国語研究所に行って言語調査に関する実験に参加してもらうこと」を設定している。

## 6. 分析

ここでは、対人関係によって見られる断りのパターンを分けた上、断りの表現としての「かもしれない」と「かも」が見られた会話例を取り上げ、分析を行うことにする。断りのパターンとして、理由説明のみで断りが成立した場合と、直接的な断りとして、断定形を用いて断る場合と、間接的な断りとして、「かもしれない」と「かも」を用いる場合と「かな」を用いる場合に分れた。以下の表4に分類結果をまとめる。

表4 断りの電話会話コーパスの分類結果

対先輩 (計 13)				対同輩 (計 13)				対後輩 (計 13)	
理由説明	断定	非断定		理由説明	断定	非断定		理由説明	断定
8	1	かな	かも (し れな い)	7	1	かな	かも (し れな い)	11	2
		1	3			1	2		

分類結果、全体的に断る理由を説明するのみで断るパターンが一番多く見られた。特に、先輩の依頼に断る場面であった対後輩の場合、理由説明と非断定の表現である「かもしれない」「かも」断定形を用いたパターンは見られず、断定形ではっきり断るか、以下の断片1のように、断る理由だけを述べ、相手に断りであることを察してもらうように会話を進めるようなパターンが見られた。

### 断片1. 対後輩の会話 (JBI02:ベース話者 JYK02:対話相手)

ライン番号	話者	発話内容
8	JBI02	それで、(うん)それをなんか私だけ急に行けなくなっちゃって、(あー)明日の9時朝9時からなんだけど、(はい)私の友達と(はい)「JYK02 あだ名」で…(はい)〈行ってもらいたい…〉{<}。
9	JYK02	〈ごめんなさい、私明日〉{>}バイトなんですよ。
10	JBI02	あ、そうなんだ。
11	JYK02	はい。

以下では、断定形を用いた断り文と「かもしれない」と「かも」を用いた断り文がどのように現れてきたのかについて分析を行う。

### 6.1. 断定形の断り文

ここでは、全ての対人関係で見られた断定形を用いた断りについて見ていくことにする。

### 断片2. 対先輩の会話 (JBI01:ベース話者 JOK01:対話相手)

ライン番号	話者	発話内容
1	JBI01	お願いがあつて、電話したんだけど、
2	JOK01	うん。

3	JB101	今度の月曜日に,,
4	JOK01	うん。
5	JB101	朝の9時にね,,
6	JOK01	うん=。
7	JB101	=国立国語研究所に行ってね,,
8	JOK01	うん。
9	JB101	私の代わりに,,
10	JOK01	うん。
11	JB101	言語調査に関する実験に参加してはいただけないでしょうか?<軽く笑いながら>。
12	JOK01	えー、へー、へ、えー=。[あまりに驚いた様子]
13	JB101	=しかも、韓国人と一緒に<笑いながら>。
14	JOK01	えっ。
15	JB101	無理ならいいんだけど。
16	JOK01	<u>いやだ</u> 。
17	JB101	いやだ<笑いながら><2人で笑う>。
18	JB101	ちょっと急ですね。
19	JOK01	うん…、9時は多分遅刻するから,,
20	JB101	うん。
21	JOK01	<微妙…><>。

断片2は、対先輩の場合の会話例であるが、JB101の依頼（ライン番号11、13）に対して、JOK01が驚いた反応をしました後に（ライン番号12、14）、「いやだ」と断定形で断っている。

断片3. 対同輩の会話（JB101:ベース話者 JSK01:対話相手）

ライン番号	話者	発話内容
31	JB107	なんかね、一応、あし、(うん)なんか2人でやる会話の日本語けど実験だから、なんか(あん)なんかもう1人ゼミの人が男の人が行くんだけど、なんか(あん)男女の会話とかするので。
32	JB107	<なんかね><>,,
33	JSK07	<へー><>。
34	JB107	なんかね、場所が結構遠いのね。
35	JSK07	あ、そうなんだ。
36	JB107	んで、しかもなんかね、朝9時からなんだけど3時間とかかかるって言われて。
37	JSK07	ああ。
38	JB107	ちょっと無理?。
39	JSK07	ちょっと無理だね<軽く笑いながら>。

断片 3 は、対同輩の場合で、JB107 が依頼したい内容を述べて後に（ライン番号 31、34、36）、JSK07 に「ちょっと無理?」と聞いたことに対して、「ちょっと無理だね。」と答えることで断りの意を表している。

断片 4. 対後輩の会話 (JB112:ベース話者 JYK12:対話相手)

ライン番号	話者	発話内容
14	JB112	ごめんね、なんか急になんだけど、(あ、はい) ちょっとお願いがあってね、(はい) 明日ね、あたし、こっ、なんか、国立国語研究所っていうところで言語調査する予定だったのね、友達と。
15	JYK12	はい。
16	JB112	でもね、朝ね急用ができちゃって行けなくなっちゃったの。
17	JYK12	あ、はい。
18	JB112	それで今ね、その一緒に、その友達と一緒にしてくれる人を探してるんだけど、,
19	JYK12	はい。
20	JB112	明日朝 9 時から 3 時間くらい実験とかできそう?。
21	JYK12	あ、ちょっと…,,
22	JB112	きつい?。
23	JYK12	<u>無理ですね…</u> 。
24	JYK12	ごめんなさい。
25	JB112	ううん、いいよ、全然。
26	JYK12	すいません、せっかく。

断片 4 は、対後輩の場合で、JB1012 がライン番号 14、16、18 で依頼した後に、依頼を受け入れてくれるかどうかを「きつい?」と聞いている。その答えとして、JYK12 が「無理ですね…」と答えた上で、謝罪をし、ライン番号 25 で JB112 が「ううん、いいよ、全然」と発話することで断りが成立したことが分かる。

以上の断片 2 から 4 までの会話例から、断定形で断る場合に見られる特徴として、依頼者が依頼内容を伝えた後に、被依頼者に依頼を受け入れてくれるかどうか確認する発話(断片 3, 4) や断片 2 のように「無理ならいいんだけど」のような<sup>被</sup>依頼者の負担を軽減しようとする発話の後に断定形を用いた断りをしている現象が見られた。

## 6.2. 「かもしれない」「かも」の断り文

コーパスで断りとして使用された「かもしれない」文と「かも」文は、対先輩の場合と対同輩の場合のみに見られたが、対先輩の場合は 3 例（「かもしれない」1 例、「かも」2 例）見られ、対同輩の場合は 2 例（「かもしれない」1 例、「かも」1 例）見られた。

以下に実例を挙げ、実際の場面で使用された「かもしれない」と「かも」を考察する。

## 断片 5. 対先輩の会話 (JBI03:ベース話者 JOK03:対話相手)

ライン番号	話者	発話内容
134	JOK03	/沈黙 5秒/明日かー。
135	JOK03	/沈黙 3秒/それどのくらい時間かかるの?。
136	JBI03	3時間かかるんです。
137	JOK03	<大笑い><3時間か><{}>。
138	JBI03	<しかも、しかも><{}>ボランティアなんです。
139	JOK03	あー。
140	JBI03	なんかお礼ができないっていう…。
141	JOK03	あ、いやいや別に (うん)、それは。
142	JOK03	3時間まずちょっときつい、きついかなー。
143	JBI03	うーん。
144	JBI03	ですよねー。
145	JOK03	9時じゃね、ちよっ (うん) なんか、うーん。
146	JOK03	/沈黙 7秒/うんー、ごめん、ちよっ<無理かも><{}>。
147	JBI03	<うん、あつ、><{}>はい。

断片 5 は、対先輩の場合の会話例である。ライン番号 141 までは JBI03 の依頼に対するやりとりが続いているが、ライン番号 142 で JOK03 が「3時間まずちょっときつい、きついかなー。」と発話することで、不確定な発話をすることで、断りたいという意思を醸し出す。その後、発話文番号 <sup>146</sup>123 で、沈黙後、謝った後に「無理かも」と発話している。その発話を受け、JBI03 は、JOK03 が「はい」と答えることで、断りを受け止めたことがわかる。

## 断片 6. 対同輩の会話 (JBI10:ベース話者 JSK10:対話相手)

ライン番号	話者	発話内容
13	JBI10	<笑いながら>あのね (うん)、明日なんかあの友、うーんと実は、国立国語研究所ってわかる?。
14	JSK10	えっ、あ、聞いたことある<けど><{}>。
15	JBI10	<あー><{}>、なんか私がそこでちょっと言語調査に関する実験を頼まれていて、(うん) それに行かなきゃいけなかったんだけど、(うん) ちょっと急用ができて行けなくなってしまったのね。
16	JSK10	あ、なんかバイト?。
17	JBI10	うん、まー、そんな感じなんだけど。
18	JBI10	ああ、急用、急用が?。
19	JSK10	うんうん。
20	JBI10	あ、急用バイトじゃないんだけど、ちょっとなんかどうしてもはずせない用がほかにできて<しまつて><{}>。
21	JSK10	<あ、そっか><{}>そっか。
22	JBI10	うん。



23	JSK10	じゃちょっとそれは、なんか <u>だめかもしれない</u> 。
24	JB110	あ、ほんと？。
25	JB110	そっか、そうだよね。
26	JSK10	うん。

断片6は対同輩の場合である。ライン番号13から21まではJB110がJSK10に依頼の内容をJSK10に伝えている。依頼内容をすべて聞いた後、発話番号23で、「じゃちょっとそれは、なんかだめかもしれない。」と相手に伝えることで、断りの意を伝えている。発話番号24と25で、「あ、ほんと？そっか、そうだよね。」と断りを受け止めることで、「かもしれない」を含む文が断りとして機能していると考えられる。

## 7. まとめと今後の課題

今回の調査では、対人関係において、同輩と後輩に対しての断り表現として「かもしれない」と「かも」が見られたが、先輩に対しては、見られなかった。<sup>①</sup>断り表現として使用された「かもしれない」と「かも」は「きつい」「無理」「微妙」のような相手の依頼に対して否定的な形容詞系の述語と共起されていたが、断定形で表現するよりは、「かもしれない」と「かも」を用いて表現することで、相手に伝えにくいことを柔らかく表現することができる<sup>②</sup>と考えられる。<sup>③</sup>しかし、「かもしれない」と「かも」は断定を避けているため、結果的には聞き手に断りたい意を察してもらわなければいけないこととなり、聞き手に負担をかけることになるため、対人関係において話し手（断る側）より身分が上の人には使いにくいことと考えられる。

今後、断りの場面以外で「かもしれない」と「かも」が「配慮表現」としてどのような機能を持つかについて考察をしてみたい。

## 注

- (1) B&L (1987) は人間関係を維持し、円滑なコミュニケーションを行うためには、話者が相手に示す配慮（ポライトネス）が必要であり、世界のどの言語にも普遍的に存在するとした。また、誰もが社会的に評価される自分自身の像（フェイス）を持っており、他人に評価されたいという欲求を表す積極的フェイスと、他人に自分の領域を侵害されたくない欲求を表す消極的フェイスがあるとした。

## 参考文献

- 麻生夕美 (2002) 「推量表現『かもしれない』が婉曲表現として使用される際の機能分類について—日本語教育の立場から—」『北條淳子教授古稀記念論集』早稲田大学日本語研究教育センター初級教科書研究会 1-12
- 小野正樹・山岡政紀・牧原功 (2009) 「『かもしれない』の談話機能について」『漢日理論言語学研究』北京：学苑出版社 26-30
- Kekidze Tatiana (2003) 「現代日本語の非断定的表現 — 「そうだ」、「げ」、「っぼい」を中心に —」(日本語文化専攻) 国言博第 7 号 293-305
- 黄鈺涵 (コウ・ギョクカン) (2006) 「『かもしれない』の婉曲表現としての機能分類について」『日本語教育研究』言語文化研究所 59-67
- 国際交流基金日本語国際センター (1993) 『教師用日本語教育ハンドブック④文法Ⅱ 助動詞

- を中心にして (改正版)』凡人社
- グループ・ジャマイシイ (1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 施信余 (2005)「依頼に対する「断り」の言語行動について—日本人と台湾人大学生の比較」『早稲田大学日本語教育研究』6
- 仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 平田真美 (2001)「『カモシレナイ』の意味—モダリティと語用論の接点を探る—」『日本語教育』108号 日本語教育学会
- 彭 飛 (2004)『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国との比較研究における諸問題—』和泉書院
- 三宅知広 (1995)「カモシレナイとダロウ」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版
- 森山卓郎 (1989)「認識のモードとその周辺」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010)『コミュニケーション配慮表現—日本語語用論入門—』明治書院
- Brown,P and S.Levinson, (1987) *Politeness: Some universals in Language Usage*, Cambridge, Cambridge University Press.

#### コーパス

- 宇佐美まゆみ監修 (2007)『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1(日本語母語話者同士の会話)2007年版』

(許 允瑄 (ホ ユンソン)、筑波大学大学院博士後期課程、cosilver@hotmail.com)